

●企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

朝日求人

仕事力

「生涯のテーマは揺らぎなく」

戸倉 啓子が語る仕事

02034

とくらより ●(株)ドムデザイン代表取締役、一級建築士、1962年福由生まれ。ナースとして慶應義塾大学病院勤務中、夜更勤務の厳しさを受けたいと建築家を志す。88年ミラノの大学に留学、建築家/コロナーバに師事。帰国後、一級建築士事務所を設立。「病院らしくない病院」などの本を綴り、多くの建物を手掛ける。居住福祉などを愛賞。2016年ベトナムにドムデザイン・ナショナル設立。

ナイチンゲールの贈り物

人生に挑む力をもらう

小学校の卒業文集に「将来の夢は看護師さん」と書きました。毎日熱心に包帯を巻く練習もしました。夢をかたえ資格を取り、大学病院の小児科に配属された新人の頃のことです。白とクレーの天井や床、壁に埋められた病棟は、大人の私でも心がなえるものでした。私は病室の子どもの心が元気になるよう、廊下の壁を落書きできるようにと廊下に壁紙をしました。しかし返ってきた言葉は「病院はテーマパークじゃありません」。

新人のナースの意見が通るはずがありませんでした。「ならば自分でやることにしよう」。あの日、拒絶されていた白血病の少女のベッド脇に、一輪の花を飾りました。そうすると、いつの間にか沈んでいた少女が心からうれしそうに笑顔を見せてくれたのです。そして驚くことに検査データも徐々に正常になりました。その時は気づきませんでした。業や化学療法にもできないことがある。それは患者さんの中に希望を与えること。一輪の花が教えてくれたように、病院をもっと元氣の出る場所にして。私は、理想の病院を造るために建築家になろうと決心しました。勤務してまだ2年半、2017年秋のことです。

無業と言われても、私は自分の目指す未来がはっきりと見えたら、それに挑まないとは断言すると思いましたが、行動する勇氣をくれたのは、あのナイチンゲールです。1950年代、クリミア戦争下での献身的な看護によって名高い彼女は、また闘志あふれる愛国者でもありました。格闘家家庭の女性が働くなどとはなかった時代に、負傷兵であふれかえる兵舎病院へスタターを率いて出向いて行ったのです。

当時の病院は不潔で、兵士たちの多くは受けた傷だけでなく細菌感染が原因で命を失っていき、ナイチンゲールはここで、環境改善を実行し、死者を激減させました。優れた統計学者であり、看護教育者であり、そして何と病院建築の才能まであったという。思い込みの強い私は、「やるべきことがあるなら、始めなさい」という彼女の応援を感じ、病院を飛び立ちました。

幸せを作る看護、五つの要素

もう10年近く前にナイチンゲールが確立した「看護観」は、今もナースのバイブルです。そして、私の人生を変えた教えもここにあります。「看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさを適切に与えることである」と。これはまさに良い住環境を作る秘訣ではないか。暑や寒さについてよりも、良い環境を与えることだと冒険にあつたことが、建築家を目指す心の支えとなりました。実際にナイチンゲールも、この本質に基づいて病院の設計、建築をしてきたのです。

私がナース時代に感じた無力感。現代になっても病院は良い住環境になっていないという救われたい思いでした。専任カーテンにバイブベッド、白い壁と天井、消毒薬のにおいなど、入院病棟に漂う特有の空気を。それはお品舞いに訪れた家族にも伝染するほど、日常から隔離された殺伐とした環境です。私は「これを変えたい。やらなきゃ」と強く思いました。

仕事をすると美辞らしきは、思い描いた理想を社会の中で実現できること。そのために必要な、学び、資格も取り、資金の調達も営業もやる。こうして私は良い道を走り始めました。(談)



戸倉 啓子 葉谷子